「わたし」が生きる意味がわかる
ワンネスの教科書

購入特典
メルマガ人気記事
ダイジェスト版

# 霊性と医療＜エネルギー医療＞

## きっかけは夕焼け色

世界を構成するのはエネルギー。
私が最初に「波動医学」というキーワードを直感的に受け取ったのは、ロジャース博士に出逢う前のことでした。

2003年、ストレス性疾患で退職したあと、自分を癒すために「とにかく好きなことをしよう」と、ずっとやってみたかった油絵の道具をそろえ、夕焼け色をひたすらキャンバスに塗っただけで、急激に癒されたことがありました。

そこから「色彩の効用」について調べはじめ、ゲーテの「色彩論」、シュタイナーの「芸術の贈り物」など、本を読み始めました。さらに、色彩が人体に及ぼす影響について現代の人が分かりやすく書いた本はないかな？と探していると、今度は「生命色彩論」という素晴らしい本を見つけました。
そこでは、色彩もふくめ、あらゆるものは光というエネルギーであり「波長」をもつことを学びました。色は、単に網膜を通して人に像を見せるだけではない。影響を及ぼすだけでない。色彩は波長であり、その波長が人体に、血圧の変化、表面温度の変化、心理の変化、病気の治癒など、さまざまな影響をも及ぼすのだ、ということを知ったのです。

## 「波動医学」とのであい

そうして、次のテーマは「波動医学」だ。と、キーワードが降ってきたのでした。「うーん、でもまさかそんなテーマの本なんてないよね」と思いながら近所の本屋にいき、さっそく私の目に飛び込んできたのが（というより、その棚にぐいと引き寄せられたのですが）「バイブレーショナル・メディスン―いのちを癒す『エネルギー医学』の全体像」リチャード・ガーバー博士という書籍でした。

「エネルギー医学」と副題がついているこの書籍は、「波動医学」が生命の根本である「エネルギー（エネルギーは振動しているので振動数つまり波動がある）」に基づいたものであること、そしてその原理を利用したあらゆる自然療法、補完療法が存在し、研究や実例があることを教えてくれました。

本を読むとき、私は重要なページの角を折ったり、付箋をつけながら読む癖があるのですが、今も大切に本棚にあるこの本は角折れと付箋だらけになってしまいました。

## すべてをつなぐものは、バイブレーションだ！

この中には、私が、英国留学時代、4科目ある語学試験の前に緊張を和らげたいと思い、薬局で見つけて、ハーブティの一種かと勘違いしてお世話になった「バッチ博士のフラワーエッセンス」についての説明もあり、エネルギーの原理を応用したものと知りました。フラワーエッセンスは抜群の効果で、一番不安だった口述試験でも、自分で驚くほど緊張することなく合格できたという体験もしました。
幼いころから受けていた鍼治療、気になっていた薬物ストレス、宝石の波動による治療、知り合いのお医者さんに「実験台に」とお試しされたラジオニクス（EAV）、フィンランド人の友達の見たこともないひどい金属アレルギーの症状に劇的な治癒をもたらしたホメオパシー、興味をもっていた自然治癒力、そして宇宙や素粒子についても、この本の中に書かれていて、「ここに知りたいことがまとめて書いてある。すべてをつなぐものは、エネルギー、バイブレーションだ！」と、感激しました。

Oneness Consciousness and Healing Institute / REMI KANAI. All Rights Reserved.

## 21世紀は医学と宗教と科学がふたたび融合する時代

この書籍の出版社による紹介文を、載せておきますね。「生命エネルギー医学の基本図書、待望の邦訳なる 現代医学が忘れてしまった大切なもの、それは人間の生命力への信頼と、それを養い、伸ばしていく技法です。

この本は、鍼灸、ホメオパシー、フラワーエッセンス、クリスタル、心霊治療、ラジオニクスなど、世界のさまざまな伝統／代替療法、ニューエイジ療法、サイキックな療法が、西洋医学の理論では無効であるにもかかわらず「なぜ効きつづけてきたのか」を、「生命エネルギー体としての人間」という観点から考察し、あらゆる癒しのわざは、じつは人間の微細身体（エーテル体、アストラル体など）の生命エネルギー（プラーナ／気ともよばれてきた）を調整する技術なのであり、物質的身体以上のレベルで作用しているのではないか、という大胆かつ統一的な仮説を展開しています。

アメリカではすでに10万部以上が読まれているロングセラーであり、多くのヒーリング／ホリスティック医学関係者の共通のよりどころとして、「エネルギー医学」「波動医学」という新しい癒しのコンセプトを広めた原動力となりました。21世紀は医学と宗教と科学が古代のようにふたたび融合する時代となるのかもしれません。・・・」

## バイブレーショナル・メディスンのセッションで感じた変化

しかも、リチャード・ガーバー博士は、この書籍の献辞でこのように述べていました。
「人間を向上させるために沈黙の作業を続けている、霊的階層構造全体に本書を捧げる」
（この、ガーバー博士が「霊的階層構造」と呼ぶものはワンネスそのものでもあります）
私は2005年1月にバイブレーショナル・メディスンの一つである、クリスタルアキュパンクチャーを含むパワーストーンセラピー、エネルギーヒーリングを学び、セッションを始めると、これまで思うような効果が得られなかったり改善しなかった方々が、セラピーによって望む「結果」を得て、受けてよかった、本当にありがとうと仰って、笑顔でお帰りになったり、次のセッションをリクエストいただく。ということが、現実に起き続けています。全人的な癒し、それは人間は単に肉体の存在であり、肉体は単に機械であるとする見方からは、不可能なのだろうと思います。

## 「ウェルネス」「ウェルビーイング」という目的地に向かう道

とはいえ、エネルギー医療、バイブレーショナル・メディスンがどんな場面においてもすぐさま有効、万能だというわけではないでしょう。根本的な原因にアプローチする時間的余裕がない状況なら、まず対症療法となるのが筋だと思います。検査などで実際の状態を確実に把握しておいたほうがよいわけですし。同時に、根本的な原因にアプローチしようとする姿勢と、症状がでるまでバランスの崩れ、エネルギー的乱れをほうっておかない、予防的アプローチを併用するというふうにシフトしていくことも大切ですね。自然療法のなかに予防に有効な方法が多くあることに気づいている、先見性のある人々が現代は多く存在するのですし、唯一の万能薬、を探し続ける昔の皇帝のようにではなく、0か100か、白か黒かでもなく、得意なところを補い合い、本来的な目的である「ウェルネス」「ウェルビーイング」へと向かえばよい。目的地は同じわけですから、アプローチの違いで断絶する必要もないでしょう。
互いの意義を認め、尊重し、協力して、積極的に交流し、高め合えるところは高め、目的地に到達していければよいのだと思います。

Oneness Consciousness and Healing Institute / REMI KANAI. All Rights Reserved.

「わたし」が生きる意味がわかる
ワンネスの教科書

購入特典
メルマガ人気記事
ダイジェスト版

# 霊性と医療＜意識もエネルギー。測定が可能＞

## 「バイブレーショナル・メディスン」を経て

リチャード・ガーバー「バイブレーショナル・メディスン」の後、スピリチュアリティを学びはじめてから出会い、大いに感銘を受けたのが、米国の精神科医、デヴィッド・R. ホーキンズ博士の「パワーか、フォースか」という書籍です。
じつは「人間の意識レベルを測る科学」という副題がちょっと気に入らなかったので躊躇したのですが、どうしても読まなくては。と感じて、購入しました。
東京発の京葉線に乗って本を開き、プロローグに記された著者の「個人的な気づきの体験」を読み始めると、高いバイブレーションが流入してきたからでしょう、急に涙が溢れてきました。
著者のデヴィッド・R. ホーキンズ博士は、この中で、意識とはバイブレーションをもち、キネシオロジー（筋反射テスト）という方法で測ることができるということを示しました。
そして意識には低次から高次まであり、「恥」から「悟り」まで、「意識のマップ（数値）」として表されています。

キネシオロジーは、「エネルギー」に対する被験者の生体反応が弱くなるか、強くなるか、を確認していきます。具体的には「腕の上がり下がりの反応」を用いて目に見える形で一つ一つ確認することができるもの。
自然療法、エネルギーを応用したセラピー等では、このキネシオロジーによるテストを使って、対象に対して生体が「強く反応（生体にとってよい）」するか「弱く反応（生体にとってよくない）」するかを確認しながら、病の原因を特定したり、改善、治療に何を用いるのがよいのか、といった選択の手助けなどをします。

## 「見える」エネルギー的「反応」としてのキネシオロジー

さて、私たちの意識は、振動しているエネルギーであるので、「振動数」を測ることで、意識の発達の程度を把握することができる・・・生体の対象となるものへのエネルギー的「反応」は、キネシオロジーによらなくとも、サイキックセンスを用いると容易に「体感」していくことができるのですが、（講座ではサイキックセンスを開発します）それを、筋肉の反射テストによって、見て確かめることができる、被験者も体験できる、というのは、比較的「客観的」な方法であるので、「見えないと信じられない、もしくは見えたほうが信じられる方」にも好まれるのでしょう。ホーキンズ博士は、精神科医ながら、セラピスト、講演家としても活動していて、1996年著書『パワーか、フォースか』に対してデンマークの皇室よりナイト爵の称号を与えられたとのこと。
アリゾナ州で治療と執筆を行いながら、「高度なスピリチュアル研究所」の主任を務めていらしたそうですが、その彼のインタビューや講演が、だいぶコアにスピリチュアルなのです（！）。驚くほどでした。著書ではそこまで語っておられませんでしたが、英文のニュースレターやインタビューを聞いていると、「無の場所に行くと、そこには高次の存在がいて・・・」「怖れとは幻想である」といった、霊的な体験談、悟りにかかわる領域の話をそれはそれはディープになさっています。

瞑想や内なるワークに数年間を費やしたのち、執筆や社会的な活動にカムバックされたとのこと。

Oneness Consciousness and Healing Institute / REMI KANAI. All Rights Reserved.

## 「意識」は「自分で選択できる」

このホーキンズ博士の1996年著書『パワーか、フォースか』に対して、デンマークの皇室よりナイト爵の称号を与えられたとのことですが、そのような評価ができるデンマークの皇室というのも、なんだか凄いですし、素晴らしいなと思うのでした。この「意識」は、エネルギーであり、その振動の場は、常に社会に、出来事に、人に、物事に、影響を与えている。引き寄せるし、影響を与えるわけです。ですから、高次の意識がもつ高いエネルギーをもって世界を平和な場所へ導くこと、低次の意識がもつ低いエネルギーをもって世界に問題を創り出すこと、意識がどのようなエネルギー場を創り出し、社会のなかで（じつは宇宙の中でも）何を引き寄せ、何を現実化するのかが変わる。どのような意識をもつか。どのような意識でいるか。私たちは、「どうにもできない」のではなく、「自分で選択できる」のです。

このことは、世界と個人の様々な問題を解決し、世界と個人が愛と平和に導かれていくために、知る必要がある。そして、霊性という探究の道をいく私たちは、この意識のマップを一つの物差し、あるいは支えとして行くことができるでしょう。意識が人を変え、世界を変える。

## いまここで、「天国」に在る

YES、WE　Can.　そうです。できるんです。霊的な意識、怖れや不安に囚われない、透明な愛と平和の意識の中にいることができれば、私たちの毎日は安らぎに満たされ、インスピレーションに満たされ、幸せに満たされていきます。そのような体験が、スピリチュアリティを探究していくことによっても、いまこの地上で体験できるようになります。

天国は、「死んでから行くところ」ではありません。いまここで、「天国」に在ることが、できるのですね。
たとえ、外は高速道路、灰色のコンクリートに覆われた都会のなかにいたとしても。洗濯ものに囲まれて瞑想をしていたとしても。その圧倒的な至福のなかに、生きることができるのです。意識は私たちがどこにいようとそのバイブレーションの内に住まうことがそれを可能にします。

Oneness Consciousness and Healing Institute / REMI KANAI. All Rights Reserved.

「わたし」が生きる意味がわかる
ワンネスの教科書

購入特典
メルマガ人気記事
ダイジェスト版

# 霊性と医療
# ＜細胞はエネルギー場を知覚し変化する＞

## 振動エネルギー場を読み取る細胞

次は、「エピジュネティクス」の先駆者、「思考のすごい力」（原題はThe Biology of Belief=信念の生物論）の著者、細胞生物学者ブルース・リプトン博士のお話です。
「思考のすごい力」で書かれている「エピジュネティクス」とは、「環境が遺伝子の活性をコントロールする分子的なメカニズムを研究するもの。」
DNAのみが変化を起こすという優越性、これまで絶対とされてきた教義では説明できない「信念が細胞を変える」ことの科学的な証拠がでてきている、と言います。
ざっくりというと「信念が人生をコントロールする。細胞さえも」というお話です。
詳しくは、ご興味のあるかたは書籍を是非読んでみてくださいね。
特に私が興味深いと感じるのは、いくつかありましたが、特にご紹介したいのがこちら↓の話です。
細胞のなかには、レセプターの役割をするものがある。（レセプターとは日本語でいうと受容体。光その他の刺激を受けて入れる生体の器官）そのレセプターは、アンテナの役割をして、環境からの特有の信号にそれぞれ反応する（ホルモンや、神経伝達物質など）レセプターの中には、光、音、ラジオ波など振動エネルギー場を読み取るアンテナもある。（！）

## バイブレーショナル・メディスンによる効果の仕組み

リプトン博士によると、エネルギーレセプターは、環境エネルギー振動に共鳴して、音叉のように振動する。
★そういえば、バイブレーショナル・メディスンの一つであるクリスタルアキュパンクチャーを学んだあと、どうしてこんなにすぐに変化があるのだろう？と思った私に、スピリットガイドがその効果の仕組みを映像で見せてくれたことがあります。
バイブレーションがクライアントの体の経絡へと流れ入り、全身に巡るネットワークへと瞬時に及び、一つ一つの細胞を振動させながら、共鳴が起き、細胞の整列が起き、ヒーリングが起きる、という映像を見せてくれたのです。

実際に、自分にバイブレーショナル・メディスンが非常に効果のあったことは体験済であったのですが、さらにクライアントが目の前で「何年もにわたる痛みがなくなった」「膝が曲がるようになった」「数回のセッションで長年の重度のお悩みが解決した」という出来事が起きていました。

そういった実際の体験から「素早くヒーリングが起きる仕組み」が何であるのかを実感していましたが、それだけに「細胞」の話は、「ははぁ、やっぱり！」とうなずくことばかりです。

## 信念もエネルギーの一部

リプトン博士は、「振動によって、レセプタータンパク質の電荷が変化し、その結果、形態が変化する。
レセプターはエネルギー場をよみとることができるのだから、物質分子だけが細胞の活動に影響を与えるという考え方は時代遅れ。生物の活動はペニシリンのような物質分子にコントロールされるのと同じように目に見えない力によってもコントロールされる。この事実は薬剤に頼らないエネルギー医学の科学的な土台となる。」と言います。つまり、エネルギー場が、人間の身体の生理機能や健康に細胞レベルで影響を及ぼしているということが科学的に明らかであるということ、それゆえ、逆にエネルギー場を細胞レベルの変化を創り出すために活用できる、信念もエネルギーの一部であり細胞に対してシグナルを送っており、じじつ細胞に変化を及ぼすのだから、ということを言っているのです。

Oneness Consciousness and Healing Institute / REMI KANAI. All Rights Reserved.

## エネルギーシグナルのほうが100倍も効率がよいだなんて！

これは、バイブレーショナル・メディスンに携わる多くの実践者が体験していた事実だと思いますが、さらに、それをサポートしてくれるような科学的事実が。
それは、「細胞に対して、ホルモン、神経伝達物質、成長因子など物質によるシグナル（信号）に比べ、周波数などのエネルギーによるシグナル伝達メカニズムは、環境の情報を伝えるにあたって、100倍も効率が良いことが明らか」（40年前の物理学者、オクスフォード大学の物理学者マクレア）↑「RESONANCE IN BIOENERGETICS」「生体エネルギー論における共鳴」という論文

ということ。WOW！ワーオ！です。40年も前にそれが分かっていたのか！ということにも驚きますが、細胞に対して、化学物質によるシグナルに比べて、エネルギーシグナルのほうが100倍も効率がよいだなんて！

## エネルギーは光よりも早く人間に影響を及ぼす

これは、薬などの化学物質よりも、エネルギーの伝達のほうが早く、細胞に早く変化を及ぼしうる可能性を示唆しています。通常のアプローチでは効果が得られないとき、より効果的で素早い結果を得られる実体験、その経験的事実を説明できる、科学的事実といえる。

事実、通常、症状が軽快したり改善することが難しいパーキンソン氏病を患うスイスのクライアントA氏が、セッションの後に、震えが止まり、これまで何年ものあいだ一人では行くことができなかった二階へ、階段を上って自分で行くことができるようになった事実。

フィンランド人の友人マイヨは、ニュージーランドの星空の町で、これまでに数時間の点滴、改善しなければ電気ショック治療のため入退院をくりかえしていた不整脈の発作から、これまでにないスピードと安楽さー10分という短時間で取り戻した事実。

アメリカ人の男性ジェフは、何年もにわたる何をしても癒されなかった痛みが、セッションのあとに消失していることに気づいて、驚愕した事実。

「エネルギーは光よりも早く人間に影響を及ぼす。だからヒーリングは瞬時に起きうる」ということは（もちろんどんなケースでも同じように改善するわけではない可能性もあり、その理由もあります）ロジャース博士の授業で学んだ理論、上記のような実際のセラピー事例、高次のガイドの指導から実感していたわけですが、そのことを、細胞のエネルギー情報伝達の効率という化学的な面からも、説明することができる。感情や思考も、エネルギーであり、ヴァイブレートしている。
バイブレーションを上手く「生命に対して肯定的（ポジティブ）な」方向に使いこなすことができれば、人は自分自身の健康も、人生も、あらゆる面において、向上させることができるということだ。

## 魂を重視する科学者

「医学教育は、最終的にエネルギーを基礎とする環境をも視野に入れていくことが必要である。そうすれば現代西洋医学の理論と実践、代替医療、そして古代から現代なでの信仰のこころ、スピリチュアルな知恵、これらを集めて統合することができるようになるだろう。」
さらに「人間は魂（スピリット）が形をとったもの」と語り、自分のことを「魂を重視する科学者（スピリチュアル・サイエンティスト）になった」と。
再び、ワーオ！です。
しかし、です。リプトン博士だけではないのですね。霊性に目覚める科学の先駆者たちが、ほかにも存在します。一人一人すべて取り上げていると、大変なことになってしまいそうなので、あと一人くらいにしたいと思いますが、なぜ、そのような医師や科学者が増えているのか？「霊的階層構造」が導く方向には、「分離」でなく「統合」の目的地があるからです。

Oneness Consciousness and Healing Institute / REMI KANAI. All Rights Reserved.

「わたし」が生きる意味がわかる
ワンネスの教科書

購入特典
メルマガ人気記事
ダイジェスト版

# 霊性と医療
# ＜脳神経外科医の臨死体験と高次世界＞

## 脳神経外科医が見た死後の世界

『プルーフ・オブ・ヘヴン--脳神経外科医が見た死後の世界』(Proof of Heaven: A Neurosurgeon's Journey into the Afterlife)　著者、アレクザンダー・エベン博士。
米国では2008年に刊行され、ニューズウイーク紙でとりあげられ、何カ月にもわたってベストセラー１位となったというこの書籍は、日本では2013年10月に翻訳版がでています。
米国でも例がない珍しい細菌性髄膜炎によって一週間昏睡状態に陥った著者が、その間に「高次の世界で体験していたこと」と「肉体の世界で起きていたこと」を、交互に描く形で、詳細に記しています。
この体験談を読むと、この方も、人生を完全に変貌させてしまうほどの決定的な意識の変容をこの「大いなるもの」との出会いによって果たしたのだな、ということがよく分かります。詳細は実際に書籍をお読みいただけたらと思いますが、この中で私が特にご紹介したいと思うのは、体験によって彼が得た「気づき」の数々です。
「脳や肉体が死んでしまっても意識は消滅せず、人間は死を超えて経験を継続していくことを、私の臨死体験は教えてくれた。またそのような意識には、個々人とこの宇宙にあるもの全体に目を配り、行方を見守り続ける神の眼差しが注がれているという、さらに大切なことを教えられた。・・医療活動や神経外科医の職務からはなれたわけではない。だが、脳や肉体の死が命の終わりを意味しないことを知る幸運にめぐまれたことで、肉体とこの世界を超えて見てきたものを伝えなくてはならない、それが自分の責務であると考えている。」このことを、脳の専門家、医師として第一線で活躍していた著者が、とつぜん「(肉体の) 脳が機能しなくなったこと」によって「意識は脳を超える」ことを体験できたと証言しているところに大きな意味があります。

## 臨死体験をする意味

臨死体験をする真の意味は「肉体が亡くなっても蘇ることがある」という例を証明するためではなく、それによる意識の変容　―　肉体を超えて在る意識的な存在である私たち、そして高次の意識のなかで体験する（そこでしかできない体験がある）―　意味を伝えていくこと、宇宙と存在についての真実を伝えていくこと。
さらには、肉体を超えたレベルでしかできない意識の体験を、肉体に持ち帰り、他者と分かち合うためです。
分かち合うとき、その人々は「人は霊的な存在であり、生きるものはすべて一つである」ということ、物質を超えた世界を伝達する「メッセンジャー」となる。
そのために「臨死体験」があるのですね。

アレクザンダー医師も「罹患したことや回復したことは副次的な意味しかない」と言っていますが、そのとおりで、体験そのものが大事というよりも、それによってもたらされる意識の変化、存在の認識が完全に変容すること、そこが臨死体験を体験する真の意味であり（目的でもあり）、それが、体験者がしばしば、その後の人生において他者へ伝えていくことを「使命」「責務」「任務」であると確信するところです。

## 「体験しなければ分からない」高次の次元

アレクザンダー博士は「私はその場所で、無数の宇宙に豊かな生命が息づいているのを見た。その中には人間よりはるかに進歩した知性を備えるものたちもいた。数限りない高次の次元があることも知った。高次の次元は、その中へ入り、直接体験する形でしか知る方法がないことも分かった。低次の次元空間からは、高次次元は知ることも理解することもできないのだ。」と述べています。

Oneness Consciousness and Healing Institute / REMI KANAI. All Rights Reserved.

こちらもまさにその通り。
高次の次元というのは、実に「体験しなければ分からない」ことで、いくら議論しても机上の空論であり、憶測でしかありません。低次の次元については「闇」における体験を、高次の次元については「光」の体験をします―高次の次元における愛や完全な受容、コンタクト体験などを報告しています。アレクザンダー博士の言う通り、低次の世界からは、高次の世界を体得することができないのです。

（ワンネスインスティテュートの認定生や集中講座を学んだ方であれば、「低次／高次の世界で体験することとは、あのことだな」「あの感覚だな」ときっと実感をもってお分かりいただけるでしょう。）

## 「実際に体験するまでは分からない」

何年も前の話ですが、正直なところを申し上げると、私は今よりも忍耐強くありませんでした。自分のことを、短気だとも思っていたほどで、”自分は論理的だと思っている人”や、”自分はそのことについてよく知っている”と思っている人々が、自身の霊的体験や実感に基づくことなく、人から聞いたこと、教わったこと、どこかで読んだこと、憶測や思考に基づいた「スピリチュアル」「霊性」「現象」について得意気に話したり、教えているのを聴いていると、途端にものすごくイライラしてきて、その場にいることが難しくなることがよくありました。そこには「真実」の純粋なバイブレーションではないもの、が流れていて、耐えがたいほど不快になるのです。
逆に、高次の世界から発している「真実」の純粋なバイブレーションに触れると、それが一瞬であっても、一言であっても、ヴァイオリンの一音であっても、深い感動が湧き上がったり、涙が流れたり、愛や至福に包まれる体験をすることもあるのです。本当に、こればかりは「実際に体験するまでは分からない」。
それを伝えるために、私たちは一体、どれだけの言葉を駆使しなければならないのか。
だから、「体験」「実感」が必要なのです。絵にかいた餅ではなく。頭でこねくり回したり、考えても、体験できません。実感もできません。体験することでしか、得られないのです。

## 「物質を超えた世界と存在の本質」を伝えていくこと

アレクザンダー医師は、こうも言っています。「脳のフィルターを通して見えるものしか、我々にはみえていない。脳は、特に言語や論理的思考を司る左脳の、分別や自我の意識を抱かせる部分は、高次元の知識や体験を得る上での妨げになっている。・・・（その通り、であるから、思考を巡らす考えることをストップすることがトレーニングの基本となるわけです。誘導の声や体で感じていることに意識を向けるのも、その助けになるからです）

・・・そこで体験した無私の愛と無条件の受容は、唯一無二の無上の発見だった。その他にも気付かされたことはあり、それらをひもとくのは簡単な作業ではないかもしれない。それでも自分に託された大切な任務はこの極めて基本的なメッセージを伝えることであると、痛切に思うのである。」

私の北欧での臨死体験は、急性感染症によるもので、記憶障害や体外離脱なども体験しましたが、臨死体験そのものが大事というより、「死とは、恐れるものではない」「大切なことは愛だ」という気づきのほうが大事で価値があることであり、その奥に広がる「物質を超えた世界と存在の本質」を伝えていくことのほうが、はるかに大きな意味と価値がある、というところに、私自身の個人的な体験からも、強く同意するのでした。

Oneness Consciousness and Healing Institute / REMI KANAI. All Rights Reserved.

「わたし」が生きる意味がわかる
ワンネスの教科書

購入特典
メルマガ人気記事
ダイジェスト版

# 霊性と科学＜素粒子と魂と私＞

## ものすごい高速で飛び回る、極小のツブツブ

私が最初に「素粒子」に関心を覚えたのは、1995年の夏、20歳のときのことでした。といっても、物理が得意だったわけでも、科学者を目指していたわけでもありません。幼いころから自然や現象にいつも関心をもっていましたが、私は自分のことを、理科や数学が苦手な（なのに理系の女友達とばかり仲良くなる）ふつうの文系女子（？）であると思ってきましたし、今も思っています。そんな私でしたが、学校の芝生にぼーっと座っていたある初夏の日、目の前をビュンビュンとものすごい高速で飛び回る、極小のツブツブを見たのです。
”何もない”ように見える空間を見るともなく見ていると、それらのツブツブはランダムに光って、消え、光って、消え・・・。
『んー？このあっちこっちに飛び回っている粒子は一体なんだろう。光ってる。光が大気中のほこりやちりに反射してるとかかな？（でもふわふわもしていないし、高速でランダムな方向に動いている様子は、重力にも反してる気も…ちりなら上から下に落ちるだろうし）『名前は知らないけれど、何かの粒子だな。粒子が移動したあとは、一瞬そこは真空が出来るのかな？なんなんだろう？』
そして、自分の周りを見ると、おびただしい量の粒子が自分を取り巻くようにして、一定方向に流れ回転していました。それも、ものすごい高速で。

こちらは、大気中の粒子とちがって、あちこちへランダムに飛んで、光って、消えて、ではなく、秩序だった波のように、皆同じ方向へ向かって、揃ってシャーっと流れて回転しているのです。これらの秩序だった「粒子」は、部屋にいるときなどにもビュンビュン回転しているのが見えることがよくありました。何か没頭したり、ぼーっとしているときによく見ます。『ん？？この高速で体の周りを回転している粒子たちは一体…？』

## 荘厳な世界を探究せよ、というメッセージ

そして、環境経済の授業を教えてくれている先生の研究室へ質問にしにいたところ、先生は「面白い質問をするねぇ。そんなことにも興味があるとは。僕は、経済学の前に、素粒子物理学の研究室にいたんだよ」と仰り、大気中に真空が細かくできているのか、粒子が飛んでいるように見えるが移動したところには一瞬ごとに”真空”ができているのか？という私の素人質問に対して、現代の理論では、重力などもふくめエネルギーのあるところを「何かある」とするので「何もない真空ではない」としていることを教えてくださったのでした。

私の場合、そういった「自然現象についての不思議な体験」と、「大樹のふもとでとつぜん愛と至福に包まれて感動の涙を流したり」、「突然やってくるメッセージやビジョンやガイダンスを受け取る霊的な体験」は、およそ同じ時期に立て続けに起きたのでした。（素粒子の絵や、脳の絵もなぜだか描こうという意図もなく、よく描いていました）
それらは、現象としては別々の事柄のように一見思えるのですが、私にとってそれは共通点のある出来事でした。

それらのまとまった体験は、
目に見えている世界がすべてなのではない
さらに奥に、さらに見るべき美しい世界がある。
既に知られたものの奥に在る、荘厳な世界を探究せよ。
という共通のメッセージを示していたのです。

Oneness Consciousness and Healing Institute / REMI KANAI. All Rights Reserved.

## ニュートリノとエネルギーの共通点

それから9年が経った2004年、いよいよスピリチュアリティについて本格的に学び始め、それが「ワンネス」であること、全て存在するものは一つであるところの意識と世界、と気づいたわけですが、そのころ、お台場の「科学未来館」で科学と霊性について、さらに気づきを得たことがあります。それは「簡単に地球を貫通してしまう極小のニュートリノ」を観測するための装置「カミオカンデ」の模型を見たときのこと。なんだろうこの装置？と思って説明を読んで、「はっ！！！」としました。

カミオカンデ…旧神岡鉱山内に設置された、東京大学宇宙線研究所が運用する世界最大の水チェレンコフ宇宙素粒子観測装置 －Wikipediaより

ニュートリノは、他のものに干渉しないまま地球を貫通していってしまうほど小さいので、観測が難しい。でも、ニュートリノだって、見えないからといってないわけじゃなかった。私たちは肉体に宿るエネルギー。エネルギーは物体を通り抜けることができる。つまり肉体に宿るにも、物質である体のなかに、エネルギーであるスピリットが入る。
反対に、瞑想中や睡眠中に体外離脱しているとき、肉体から抜け出たスピリットはエネルギーの塊として存在する。エネルギーであるために、物質や物理次元を通り抜けられるし、瞬時に宇宙や高次元と意識を拡大することもできる。何らかの現象があり、存在するはずだという仮定があって、観測するのに十分な装置ができてはじめて、観測される。観測されて初めて「存在」が認められる。私がそこで気づいたことは、物理学の方たちからすれば「そんなにざっくり乱暴に一緒にするな！」と呆れられてしまうことと思いますが、宇宙から地球を通り抜けてあちら側へ貫通していく「ニュートリノ」と、宇宙からやってきて人間としての肉体のなかに入り肉体から（夜な夜な体外離脱）出ることを繰り返している「スピリット」と、仕組みは同じじゃないか。ということでした。

## 蛍光灯と外国製の冷蔵庫

さらに、エネルギーを知覚することができる、ということに確信を深めた出来事があります。
もともと蛍光灯や冷蔵庫（粗悪なもの）が苦手な自覚があった私。蛍光灯からは粉子が降ってくるのが見えて不快だし、目に入ると目の奥がガツーンと痛むので、蛍光灯の多い電気店は目を伏せて入る。中学生のときに自室の蛍光灯を、電球の照明に変えてもらいました。

ホテルで外国産の冷蔵庫があると耐えがたく不快になってくることもありました。気持ちの上での話でなく、粗悪な外国産冷蔵庫は「気に障る」のです。この冷蔵庫が犯人か。と思ってコンセントを抜くと体感していた不快さが収まるのです。
2010年1月には、出産で入院していた部屋に戻ってきて、私は非常にイライラしていました。ホルモンの影響ももちろんあるでしょう。（部屋の蛍光灯は使わずに、電球のランプを持ち込んでいました）
が、イライラの理由は、部屋の中でおきる「電気の点滅」でした。ぱっぱっぱと規則正しいリズムで点滅して見える。イライラの原因である蛍光灯がついていないのに、部屋の中に光が点滅して見える。ものすごく不快です。
普段より出産後でさらに敏感になっていたのでしょう、私は「この点滅、不快すぎる！」冷蔵庫を見つけ、よく見れば外国産、やっぱりね。ぶちっ！とコンセントを抜くと、点滅が収まりました。あぁよかった。これでやっとリラックスできる。この出来事を、5年後の2015年、研究所勤めの工学博士で天才的な発明家でいらっしゃる方にお会いした際、たまたまお話したところ、僕はラボでその現象を写真撮影して確認したのを見たことがある。電気は波になっていて、それを撮影すると点滅して見える現象を本当だと知っている。
でも、きみはそれを肉眼で見たの？
はい。不快だったので、冷蔵庫のコンセントを抜きました。
それを、見たの！点滅するのを。
はい。そうなんです。

実際、その方はひどく驚いて、それはおかしい（肉眼で見えるはずがない）。でも正しい（事実と合っている）。と、繰り返し仰っていました。おかしいっていうのは、ほめことばだから。とおっしゃっていましたけどね＾＾

Oneness Consciousness and Healing Institute / REMI KANAI. All Rights Reserved.

## 「霊性と科学」は同じところへ行きつく二つの世界

私が体験していることには、なにか理由がある。やはり単なる気のせいでも、勘違いでもないのだな。
あとで、何らかの説明がやってくる。1997年には、野辺山宇宙電波観測所の所長さんが講義のなかで、「ミリ波しか受け取れない電波望遠鏡時代には、宇宙の起源をさかのぼるための微弱な電波をとれなかった。もっと細かいサブミリ波が受け取れるようになると、宇宙の起源までさかのぼれるようになる。
だから日本でも、高度の高い山の上などできるだけ条件がよいところに世界最大の電波望遠鏡を建設しようとしている。」と仰るのを聞いたことがあります。カミオカンデや、電波望遠鏡と同じように、生命エネルギーや意識を構成する粒子を計測できることになれば、その存在も仕組みも、明らかになるのだろうな。
そうすると、霊性は、人間の本質、宇宙の本質として、未来の科学のなかで扱われるようにもなるだろう。
そんなふうに、私は捉えています。
ですので、私は「霊性と科学」とは必ずしも分離していなく、相反するものでない、むしろ未来には同じところへ行きつく二つの世界であるのだとおもっているのです。
肉眼で見えるレベルだけを知覚していては、とてもそうは思えないだろうことも、分かっていますけれどね。人間の肉体に備わる五感のみに囚われていると、どうしてもそこが知覚できる限界になってしまうことは、仕組み上、仕方ないことなのです。

Oneness Consciousness and Healing Institute / REMI KANAI. All Rights Reserved.

「わたし」が生きる意味がわかる
ワンネスの教科書

# 霊性と科学
# ＜二つの世界が一つとなるところへ＞

購入特典
メルマガ人気記事
ダイジェスト版

## 「量子力学とヒーリング」

素粒子をみたことで、興味をもったというお話をしましたが、その流れから「量子力学」にも興味を感じた私。というのも、私たちを含む「バイブレーションづかい達」が当たり前のように行っている、「物理的に触らないで行うバイブレーショナル・メディスン」「遠隔エネルギーヒーリング」「意識の遠隔作用」「共鳴・同調」などの仕組みを量子力学の「量子もつれ（クオンタム・エンタングルメント）」「同期（エントレインメント）」によって説明できると思われたからです。

そこで、2016年9月から12月にかけて、英国人脳神経学者のDr.クリスと、「量子力学×スピリチュアリティ＝現実化の法則」では量子力学で発見されたさまざまな現象や法則の解説と、「量子力学とヒーリング」など3つのコラボセミナーを開催しました。
量子力学で観察されている「量子もつれ（クオンタム・エンタングルメント）」や「同調現象（クオンタム・エントレインメント）」とは面白い現象です。
「「量子もつれ」（クオンタム・エンタングルメント）という性質がもたらす遠隔作用が存在し，2つの粒子が何の媒介もなしに同期して振る舞う。」
「量子もつれは，粒子がどこに存在するかによらず，粒子が何であるかによらず，互いにどんな力を及ぼし合っているかによらずに，2つの粒子を関連づける。原理的には，銀河の両サイドに遠く離れた電子と中性子が量子もつれになっている例も考えられる。」

「一方で，量子もつれは「非局所性」という非常に気味悪く徹底的に直観に反する現象を引き起こす。対象に触れず，そこまでつながったどんな実体の連鎖にも触れることなく，物理的影響が及ぶ可能性が生じるのだ。」

D. Z. アルバート R. ガルチェン「量子もつれが相対論を脅かす　A Quantum Threat to Special Relativity（SCIENTIFIC AMERICAN March 2009）日経サイエンス」より

「量子の同期（または引き込み現象。エントレインメント）」という、興味深い現象があります。たくさんのメトロノームの振り子をバラバラのタイミングで動かすと、最初はバラバラのまま動いていますが、次第にすべての振り子が振動タイミングをそろえ、同期して全く同じように動きます。外の力または相互作用によって。（心理学では母子間の同調を意味する）

量子力学でみられるこういった現象は、「遠隔ヒーリング」（離れたところに住むAさんやBさんに意識をむけて行うと、AさんやBさんのほうでは「体感の変化、皮膚表面温度の変化、脳波や意識の変化を体験する、症状の緩和や改善を感じる」といったことが起きることや、地上の私たちに起きる何らかの現象は銀河の向こう側にいる相手にも変化を及ぼしている可能性（逆も同じ）などを説明できると思われ、ヒーリング、精神世界・スピリチュアリティで昔から伝わっている知識）とまったく同じことを言っている…と思わざるを得ないのです。

私は、遠隔ヒーリングを科学者の方に測定してもらったことがありますが、皮膚表面の温度が1度上がるなどの変化が現れ、かつ症状は改善し解消したとの報告をいただきました。また、その場にいた測定者の方は、ヒーリング測定の最中に眠くなったことを教えてくれました。

Oneness Consciousness and Healing Institute / REMI KANAI. All Rights Reserved.

## 量子力学に携わる物理学者によるピリチュアルな発言

量子力学に携わる物理学者の中には、スピリチュアルな発言をする人々もかなり存在します。たとえば、ロジャ・ペンローズ卿というイギリス人数学者・宇宙物理学者は、「意識は無数の量子によって生じる」こと、臨死体験について、「脳で生まれる意識は宇宙世界で生まれる素粒子より小さい物質であり、重力・空間・時間にとらわれない性質を持つため、通常は脳に納まっている」が「体験者の心臓が止まると、意識は脳から出て拡散する。そこで体験者が蘇生した場合は意識は脳に戻り、体験者が蘇生しなければ意識情報は宇宙に在り続ける」あるいは「別の生命体と結び付いて生まれ変わるのかもしれない。」と述べています。
最近では、2014年「タイム」誌の「世界で最も影響力がある100人」にも選ばれた再生医療の専門家ロバート・ランザ博士が、「Biocentrism: How Life and Consciousness Are the Keys to Understanding the True Nature of the Universe（生命中心主義：いかに生命と意識が宇宙の本質を理解するための鍵であるか）」という著書の中で「生命と意識こそ、宇宙の本質」「意識は物質に先立つ」ことを発表しています。

リチャード・コン・ヘンリーという物理学者は「宇宙は物質ではない。精神的でスピリチュアルなもの」と、The Mental Universeという記事の最後に結んでいます。

## スピリチュアリストは、”怪しくて科学的根拠がないので意味がない”？

さて、ここまできて、疑問が生じます。「スピリチュアリストは、”怪しくて科学的根拠がないので意味がない”との批判を、どう受け止めるべきか？」
神秘体験者としての私は、こう思うのです。
古代から知られる、説明されていない現象。健康になるのも、不思議な体験をするのも、見えないエネルギーが私たちを構成し、また取り巻き、干渉しているから。霊魂は意識であり、意識はヴァイブレートするエネルギーであり、そのエネルギーは、人に対しては肉体レベル、感情レベル、精神レベル、霊的レベルで、あらゆる変化を引き起こす。その変化はさざなみのように、他者、他所へ及ぶ。私たちは日々、一刻一刻、自らが振動するバイブレーションの塊、そのもの。人間にとって何らかの意味のある現象—症状が改善する、解消する、幸せになる、生きがいを見出すなど—が起きているなら、なぜなのか調べてみればいい。

意識の作用が関係していると思われる数多くの現象が起きているなら、そこには何らかの干渉なり伝達があると仮定して、観察してみればいい。
それが、真実に対するオープンな態度と精神であり、未知なる世界へのゲートウェイであると思うのですね。
いまの知覚レベルで観測できないから、測定できないからといって、「それは存在しない！」と頑なに信じ込もうとするのは、無理があるというもの。

Oneness Consciousness and Healing Institute / REMI KANAI. All Rights Reserved.

## 私自身の想い

現実に体験している側からすれば、「私にはちっとも見えていない。だから、あなたが体験しているからといって、それは存在しない！」と言われているのと同じ。これも、ある意味とても主観的なものの見方です。
自分の知覚の外側は未知の世界。知覚できないから「ない」ことになる。でもそれは、その領域に触れていないだけ、知らないだけ、なんですね。
では、神秘体験者として、科学的な妥当性の証明を待つ必要はあるのか。
という点についての私自身の想いは、このようなものです。
・　・　・　・　・
体験を通して学び、実践してきた者として、その証明を待っている間に、癒すことのできる相手、力づけることのできる相手、感動を分かち合うことのできる相手、自殺を思い留まらせることのできる相手、援助できる相手、ひらめきを促すことのできる相手、愛し育てることのできる相手がいる。
その人の困難が少しでも和らぐなら、問題が改善、解決されるなら、痛みから解放されるなら、希望を指し示すことができるなら、やりたいことをして悔いのない人生を送れるよう手助けができるのなら、それは、やるべきなのだと。人生において取り組む価値のあることなのだと。

証明されようが、されまいが、芸術や哲学の価値は変わらないのと同じく数値として出ようが、出まいが、霊性探究と実践の価値は変わらない。それが、人々の心身を豊かにし、生きがいをもたらし、人々の人生に愛や善良さを増す助けになるのなら、意識が変わることによって世界が一歩でも平和へ導かれるなら、そこには計り知れない、大きな価値がある。胸を張って、頭を高く掲げて、地を踏みしめて、堂々と歩いたらいい。価値のあることに取組んでいるのだと。未知の領域に挑戦しているのだと。一人一人の振る舞いが、地上の誰か、宇宙のどこかに、影響を及ぼしている。その影響を、よいものにすることで、全体がよりよい世界に至る手伝いを、日夜しているのだと。それは同胞に対する、そして宇宙に対する、大いなる貢献なのだと。
私たちは心強いことに、孤立無援ではない。「霊的構造全体」―ワンネスは、霊性に取り組む人々の応援となる大勢の強力な同胞を送り込んでいる。それは、自己の本質―霊性＜スピリチュアリティ＞に目覚め、その意識を携えて地上を生きる人々。「科学」や「医療」という側面から「霊性」を支持する人々もまた、地上にやってきている。

「そうだ、そこには探究すべき根拠があり、意味があり、価値がある」そのような人々と力を合わせていけばいい。その影響は、時空を超えて、遠く離れたところまでいきわたる。光のさざなみのように。
そして、未来には出会うことになる、二つの世界が一つとなるところに。
・　・　・　・　・　・
それが私の答えであり、共鳴する振動をもつ方々へのメッセージです。

Oneness Consciousness and Healing Institute / REMI KANAI. All Rights Reserved.

「わたし」が生きる意味がわかる
ワンネスの教科書

購入特典
メルマガ人気記事
ダイジェスト版

# 霊性—地球全体の未来に関わる大事

今回は、究極の「一つであるところ」—ワンネス意識からの大事なメッセージをお伝えします。
2015年5月にワンネスインスティテュートの紙のニュースレターである「ワンネスタイムズ」の結びのメッセージとしても掲載しています。

○●○●○

霊性探究の道が苦行や荒行である必要はありません。偏見や思い込みに囚われない、中立的でオープンなマインドや態度は、探究の道をより歩きやすく、驚きや喜びに満ちたものにしてくれます。
苦痛で苦痛を癒すことはできないのと同様、問題を力で抑圧したりねじ伏せても根本的解決に至らないことは明らかです。
アインシュタインが言ったように、問題はそれが起きたのと同じ次元では解決されえないのでしょう。個人のレベルでもより大きなレベルでも、問題や苦痛が生じたもととなる原因そのものを癒していくことが大切です。
人類の意識・霊性の進化向上、そうして至る源との合一とは、あらゆる存在にとっての究極の目的です。アセンションとは、人類の意識が進化上昇し、全ての存在が究極的に一つであるところへと向かう融合と帰還の旅路です。
そのようなわけで私たちは、よく言われるように「転生を通じて霊的に進化しつづける永遠の旅人」です。
しかし単に彷徨しているわけではありません。目的地は、ワンネス。小さなせせらぎがやがて大きな河へ合流するように、多様性を受容しながら一つであるところへの意識へ向かって上昇しています。
転生を通じて進化し続けるスピリットは死ぬことがありません。肉体とは転生ごとに異なるレッスンや課題を学んだり、異なる目的を果たすために一時的に滞在する神殿のようなもの。神殿が朽ち、肉体は滅びてもスピリットとしての私たちが滅びることはありません。
であるから、「人は死なない」のです。
私たちは、人間存在としての学びを全うして意識の進化を達成するまで、幾多の転生を経て、永遠に進化し続ける、霊的に不死の存在なのです。
個々人がスピリチュアリティ＜霊性＞にどの程度自覚的にフォーカスした人生を送るかは、各々の計画あるいはサイクルによっても変化しますが、たとえ無意識的にであってもスピリットはその深奥でその転生経験のすべてから学びを得ています。
そのためより大きな視点からみれば、いっとき「退化」「失敗」「否定性」を通して学んでいるとしても霊的な成長という意味では常に「成功」しているということができます。
全体もそのように成長しているので、「ALL　IS WELL」（よく悟りや神の視点として言及される”すべてはよい”の状態、需要や諦めではない受容）と言えるのです。
あらゆることは、私たちが経験を通して進化成長を遂げるための選択です。私たち一人一人もまた一つ一つの選択の結果であり、あらゆる経験の集積であり、叡智の宝庫です。
それが「真の自己」たる「スピリット」つまりそれが「わたし」であり「あなた」なのです。それは全ての人に共通の普遍的な真実です。
私たちが「スピリチュアルに生きる」とき、その選択は職業活動に限定されるものではありません。職業とは、地上で得られる人間経験の一つであり、経験からさまざまな課題を学び、霊的に成長するための一側面に過ぎません。
一人一人の存在は、地上での一転生の一側面よりはるかに大きいのです。そしてスピリチュアリティ＜霊性＞とは、人生＜一転生＞よりはるかに大きなものです。
ひとりひとりでの内の争いや戦いが癒されるとき、人類全体に重くのしかかる苦痛と葛藤の一端が癒されます。

Oneness Consciousness and Healing Institute / REMI KANAI. All Rights Reserved.

誰も「一つ」であるところのワンネスから孤立した存在などいないからです。そのつながりに目覚め、どの【一断片（存在）】も全体から無縁であり得ないこと、よって「一断片」も欠くべからざる全体の一部であるということを理解する必要があります。
だからこそ、私たち一人一人が癒され、満たされ、内側から変化するとき、世界の一端もまた癒され、満たされ、変化することが可能となるのです。究極的に「一つ」であるところの「ワンネス意識」へと人類の意識が拓き霊性が進化成長することは、個人の幸せのみならず人類全体の課題であり、地球全体の未来に関わる大事です。
私たちは日本と世界とにおけるスピリチュアリティが確固とした基盤の上に目的を果たすべく、本質的な理解を得てよき成長を遂げることを切に願いながら、日々の地道な活動や霊性の向上探究に取り組んでいます。

ささやかであっても、そのような一人一人の語りかけ、一つ一つの癒しや目覚めの体験が、いずれ、愛と安らぎと内なる平和に満たされた世界をこの地上に実現するための一助となりますように。
○ ● ○ ● ○

ここまでお読みいただいて、霊性とは奥深く、根源的、人の本質にかかわる大切な事柄、分野であるのにもかかわらず、その本質が知られていない、価値がきちんと伝わっていない、と思いませんか？だからこそ、きちんと本質を突いた＜霊性教育＞を受けた「スピリチュアリスト達」が必要であることを、私は痛感しています。一人が声を上げても、見向きもされないかもしれません。でも、多数決、数がものを言う社会では、多くの人々が集まって声を大にしていけば、共鳴、賛同する人々が増えていき、いつしか本来の価値を取り戻そう、というムーブメントになっていくのではないでしょうか。いえ、そうしていきたい、と思うのです。そのとき、地上は無知の代わりに理解が、嫌悪の代わりに慈愛が、競争の代わりに共生が、戦いの代わりに平和が拡がる楽園になっていることと思うのです。そしてそれは、この地球に住まうすべての人、科学者であろうが、経営者であろうが、芸術家であろうが、会社員であろうがすべての人にとっての大事であるはずのこと、と思うのです。

Oneness Consciousness and Healing Institute / REMI KANAI. All Rights Reserved.